令和２年度

「運営に関する計画」

（最終評価）

2 月 19 日（金）最終評価全体会

大阪市立豊新小学校

令和 3 年 2 月

（様式２）

大阪市立豊新小学校　令和２年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標 ○令和２年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○令和２年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上（H28:87%　H29:93%　H30:90%　R1:93%）にする。 ○令和２年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○令和２年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	A 1 B 14 C 1 D 0

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのアンケート調査を定期的に（学期に１度）実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していく。 指標　令和２年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	A 5 B 11 C 1 D 0 B
取組内容②【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。 指標　令和２年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上（H28:87%　H29:93%　H30:90%　R1:93%）にする。 令和２年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	A 3 B 12 C 0 D 0
取組内容③【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 区役所（子育て支援室）やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有し、個別支援を行う。 指標　令和２年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	A 2 B 12 C 2 D 0 B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 低学年から「相手が嫌がることをしない」ということを指導していることが、いじめの防止につながっている。「いじめアンケート」を行うことにより、現状把握・早期解決ができた。また、生活指導部会兼いじめ対策委員会で児童理解を行えている。

② 児童理解・児童把握を行っているので、暴力行為を行う児童はいない。コロナ禍で制限が多くなった中、児童はよくきまりを守れている。

③ 何か事案があると関係機関に連絡を取っている。

- ①…学期ごとの「いじめアンケート」により、児童の実態把握を定期的に行うことで、早期解決につながっている。（解消した割合を95%以上かは、わからない。）
- ②…校内調査における「学校のきまりを守って学校生活を送っていますか」の項目において肯定的に答える児童の割合は 93%だった。全教職員で日常的に指導を続けてきた結果、きまりを守って生活する児童が増え

ている。（小学校学力経年調査における結果はわからない。）
- ③…関連機関と連携し課題に対応してきた。担任を中心とした学年の努力により、不登校であった児童が登校する機会がふえた。
- 区役所やスクールカウンセラー、ソーシャルワーカーと連絡はとれていると思うが、連携を図って支援できているまではいかない。
- 感染症対策の恐れで新たな不登校児童が増加してしまった。また、他機関との連携によるケース会議も不十分となったため。
- ①…相手が嫌がることをしないという子を低学年から継続して指導できている。
- ③…区役所、子相やＳＣとは連携をしっかりとれていると思う。
- 決まりを守っていると答えた児童の割合が、93%と目標に達していたが、前年度と比較すると同じ水準なので目標通りと言える。
- 今までの学校生活に加え、コロナ禍であることからのルールを正式に学校の決まりに加えてもいいのではと感じる。
- コロナ禍で制限されることが多かったが、児童はよくきまりを守ったと思います。
- 学校の今月の目標は月初めに出してほしいです。
- ①…各学級、学年で子どもを理解し、いじめ防止につながっている。
- ②…教員間で共通理解や役割分担など周知をしていく必要がある。
- 生活目標が出るのが遅かったり、何年も同じものを使用したりするのではなく、見直しも必要だと思う。
- ③…各機関とどのように連携するのか、曖昧な所がある。報告のみに留まり、解決へとつながっていくのが難しいこともある。
- 定期的にいじめアンケートを行い、その都度聞き取りをしたり、家庭連絡をしたり、丁寧な対応をしている。
- ①…いじめアンケート実施により現状把握、早期解決に取り組んだ。
- ②…93%を目標を上回った。
- ③…必要に応じて連携を行った。
- 学校の決まり、規則を守ることを全教職員で指導してきた。その成果は見られるが全児童に届いているとは言えない。
- 担任の先生方の日々のご指導のお陰で、大きな事案もあまりなかったように感じた。
- 年間を通じて教職員で共通理解を図りながら、児童理解、児童の家庭環境理解に努めてきた。また必要に応じてスクールカウンセラーや区役所の子育て支援室への案内をしたり、個別支援を行ったりしてきた。
- ①…学期に１度のいじめアンケートを実施し、認知した事案について丁寧に解決してきた。解消は100%である。
- ②…指標にあたる数値は93%と目標を上回った。また暴力行為を複数回行う児童はいない。
- 必要に応じて諸機関と連携しながら個別支援をしてきた。

次年度への改善点

① 継続して全教職員で指導や共通理解を行っていく。
② 継続して全教職員で指導や共通理解を行っていく。
③ 連携することにより、関係機関とケース会議を行っていく。

- ①…継続して取り組みを行い、必要に応じて校内で、いじめ対策委員会をもつ。
- ②…継続して全教職員で指導を行う。大きな課題や事案があれば、全教職員で共通理解し解決を目指す。
- ③…継続して連携を行い、支援していく。
- ①…継続して指導していく。
- ③…今後も連携をとっていく。
- 教室を飛び出す児童への対応・指導の仕方をもう少し共通理解し、どの教職員も同じ対応であるべき。

今年度同等に全体で取り組みを進める。

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校の年度目標 ○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（音楽鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。 ○令和 2 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H28:83%　H29:83%　H30:85%　R1:83%）にする。	A 1 B 7 C 8 D 1 C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策２　道徳心・社会性の育成】 芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。 指標　年間行事計画に基づき、芸術鑑賞行事、３～６年生で社会見学を実施する。 令和２年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H28:83%　H29:83%　H30:85%　R1:83%）にする。	A 1 B 7 C 8 D 1 C

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① コロナ禍で社会見学を予定通り行えなかった。校内調査で昨年度より数値は上昇したが、目標値には達せなかった。

- コロナ禍でということもあり、社会見学等が十分行えなかったため。
- 工場が出している見学動画等の視聴。
- ①芸術鑑賞行事や多様な体験活動を計画はしたが、コロナの関係ですべてはできなかった。また、校内調査における「自分には良いところがある」の項目において肯定的に答える児童の割合は 84%と、目標を達成しなかった。
- コロナの影響が大きく目標達成が難しかった。
- 感染症対策をしてた上で、音楽鑑賞をすることができた。前年度同様の体験活動ができるようにしていく。
- 各学年、社会見学や芸術鑑賞を行えた。
- 校内調査では、84%で目標に達していないが前年度よりも数値は上がったので、指導の成果は表れているのかもしれない。
- 今年度は、コロナ禍で十分に社会見学を行えなかった学年もある。
- 異学年との交流が少なかった事もあり、自分には良い所があると答えた児童が少なかった。
- コロナの影響で制限や中止になることがあったが、計画を立てて子ども達の活動支援を行うことができた。
- 各学級の日々の声がけ、指導を継続して行っていく。
- 今年度は、コロナ禍で芸術鑑賞行事や体験活動が制限された。
- コロナ禍で実施できないものもあった。
- コロナ禍のため制約されていたが、芸術鑑賞会、社会見学等可能な限り行い、児童の心を育む活動を進めた。
- 校内調査における「自分には良いところがある」の項目において肯定的な回答は 84%であった。自尊感情を育てる取り組みの工夫。
- 今年度は、計画通り実施できなかったこともやむを得ないと言える。
- 今年度はコロナ禍の状況であったが、先を見通した適切な時期に鑑賞行事や社会見学を実施することができた。
- 年間計画に基づき、心豊かな子どもの育成を目指して多様な体験活動に取り組んできた。一部、コロナ感染の状況により実施できなかったものもある。

次年度への改善点
① 日ごろの活動の中で、自己肯定感を高められるようにほめる場面や言葉を増やしていく。 ・ 日々の学習活動の中で、ほめることを増やす。 ・ 道徳や学活の時間に、自己肯定感を高められるような取り組みを行う。 ・ 自分の良さを認められるような誉め言葉や一人一人が活躍できるような教育活動を工夫していく。 ・ 友だちのことは認めてあげることができるが、自分のことは認めることができない児童がどの学年も多い。道徳などで自己肯定感を高められるような内容を重点的にやる必要があるように感じます。 ・ 来年度も、どのような状況にあるかは予想できない。心豊かな子どもの育成のための多様な手段を考える必要がある。 ・ 「良いところがある」ことと「良くないところはない」ことは違うということを伝える必要がある。「良くないところがあるから」と否定的に捉える児童も結構いる。5 年続けて下回っていることから、目標値を 85%ほどのしてはどうか。

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 学校の年度目標 ○令和２年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を86%以上（H28:84%　H29:86%　H30:83%　R1:88%）にする。	A 0 B 10 C 6 D 1 C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策３　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学級文庫の充実ならびに図書室活動の活性化図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。 指標　令和２年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を86%以上（H28:84%　H29:86%　H30:83%　R1:88%）にする。	A 0 B 11 C 5 D 1 C

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 学級文庫の充実を行うとともにと図書館開放等を計画的に実施してきた。また、図書委員会を中心に図書月間（10 月）を行い、本に親しむ機会を増やした。本に親しみ進んで読むことへの意識は高まってきてはいる。コロナ禍で、図書室等の使用制限があったにもかかわらず、大きくポイントを下げることはなかったが、令和２年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、目標の 86%を下回った。(84%)

- 読書ビンゴやお勧めの本等の紹介。
- 読書を促す取り組みがなされていたので、次年度も委員会を中心に継続していけたらと思う。
- 朝の読書タイムを設けても良いと思う。
- ①…コロナの関係で、図書室の使用に制限があったので、昨年のような取り組みができなかった。
- 令和２年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 84%で、目標（86%）を下回った。
- 本を読むことが好きのポイントが高くなってきた。
- 86%以上に届かなかったため。図書室の利用や児童朝会での読書の声がけを積極的にしていく。児童集会の Teams のように読み聞かせをする等も。
- 学級文庫の充実を行うとともに、図書館開放も実施できた。
- 今年度は 84%であり、家で過ごす時間が増えた割には少ないように感じる。ゲームの時間が増えていそうだと感じた。
- 休みの日などに本に親しめるような取り組みを行ってもいいと思った。
- 本を読むことが好きな児童は多い。読書月間や図書委員さんの呼びかけでさらに本を読むことの意識へつながっていると思う。
- 読書活動に取り組んでいるが、目標数値に達していない。
- 84%で目標より 2%下回った。
- 校内調査における「本を読むことが好き」の項目で肯定的に答える児童の割合が 84%で目標に近い数値である。本の紹介活動等、学級での取り組みが進められている。
- 今年度は、図書室活動への制限が多く、難しい状況であった。
- 計画を立てて、図書館開放や図書の貸し出し、授業での図書の利用を行うことができていた。しかし、目標の 86%にはわずかながら届かなかった。来年度は朝の時間を利用して（昼の掃除終了など)、全学年読書タイムを実施したらよいと思う。
- 指標にあたる数値は 84%と目標を少し下回った。しかし、取り組みはしっかりできており、ほとんどの児童が図書の時間を楽しみにしている。

次年度への改善点
① 次年度も学級文庫の充実並びに図書室活動の活性化を図るとともに、児童がより読書に親しめる機会を増やす。来年度もコロナ禍が続くことが予想されるため、「読書タイム」の設定等を計画し、国語科の研究「読むこと」と関連付けた取り組みを全学年で共有していく。 ・ 来年度もコロナ禍で集会の実施が難しい場合、隔週で集会と読書タイムにする等。 ・ ①…次年度も学級文庫の充実ならびに図書室活動の活性化図るとともに、児童がより読書に親しめる機会を増やす。 ・ 国語科の研究「読むこと」と関連付けた取り組みを全学年で共有する。研究が深まれば本を「読むこと」のポイントがもっと上がるかもしれない。 ・ 児童の興味に合わせた学級文庫の厳選を行う。 ・ 積み重ねてきた活動が継続されている。低学年への委員会や6年生から読み聞かせ等行えなかったが、新しい図書の本を取り入れるなどの成果が出てきている。 ・ 図書館開放の日数を増やす。（コロナの状況による）

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標 ○令和２年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント減少させる。 ○令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント増加させる。 ○令和２年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H28:76%　H29:75.9%　H30:72.7%　R1:73.3%）させる。 学校の年度目標 ○令和２年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H28:89%　H29:91%　H30:94%　R1:91%）にする。	A 1 B 14 C 1 D 0

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策５　子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを行う。 指標　令和２年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 令和 2 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント減少させる。 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント増加させる。	A 0 B 9 C 0 D 0
取組内容②【施策５　子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように工夫する。 指標　令和２年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H28:76%　H29:75.9%　H30:72.7%　R1:73.3%）させる。	A 3 B 10 C 1 D 0 B
取組内容③【施策５　子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。 指標　令和２年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H28:89%　H29:91%　H30:94%　R1:91%）にする。 全教員が一人１回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修会を８回以上行う。	A 3 B 12 C 2 D 0 B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 一人ひとりの状況に応じた学力向上を目指し、指導法の工夫を行っている。基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図れるようにしていく。 ② コロナ禍のため、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築することができなかった。また、話し合い活動も積極的に実施できなかった。しかしながら、令和２年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、80％で前年度より 6.7 ポイント増加した。コロナ禍にも関わらず児童の意識が高くなっているのは日々の授業が工夫されている成果である。 ③ 令和 2 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は93％で目標（90％）を上回った。今後も研究主題（読み取り）に沿った教材研究・研究授業を行っていく。 --- ・ ③…本校の研修主題（読み取り）に沿った教材研究・研究授業を行っていくべきだと思う。 ・ 視写・読書・言語活動等の設定をし、学校全体で取り組んでいけることを実践していく必要がある。 ・ ①…基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、放課後学習や家庭学習支援など児童一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みを行うことができた。進捗状況については、令和２年度の小学校学力経年調査結果が出た後評価する。 ・ ②…コロナの関係で、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築することが十分にできなかった。また、話し合いの場を積極的に持つことができなかった。進捗状況については、令和２年度の小学校学力経年調査結果が出た後評価する。 ・ ③…令和２年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 93％で目標（90％）を上回ることができた。 ・ 国語科の研究が深まったとは思えない。 ・ 全体研修会や全教員が一人１回以上の研究授業の回数が到達していない。 ・ 年度ごとに考えを深めたり、広げたりするにおいて、増加しているため。 ・ ICT を今後も積極的に利用していく。 ・ 分かりやすい授業をしようと工夫で来ている。ただ結果として表れているのいかが気になる。 ・ 引き続きわかりやすい授業になるよう研究を推進していく。 ・ 話し合い活動を行うことは難しかったが、付箋を貼るなどして意見の交流を行えるよう工夫した。 ・ 朝の会等を活用し取り組みを行ってきているが、視写の取り組みのまとめを行う等、成果を目に見える形で子ども達に意欲的になること等考える必要がある。 ・ コロナ禍でグループやペア学習は難しい点もあったが、その中でも昨年度より上回っている。 ・ 校内調査「授業内容は理解できる」の項目において、肯定的な回答が 93％と目標に達している。 ・ 学習活動への制限が多い中、できる限りの取り組みを工夫してきた。 ・ ②…校内調査における同じ項目の数値は、80％で前年度より 6.7 ポイント増加した。コロナ禍にも関わらず児童の意識が高くなっているのは日々の授業が工夫されている成果だと考える。 ・ ③…指標にあたる数値は 93％と目標値を上回った。国語の研究に取り組み授業力の向上もあったと考える。
次年度への改善点
小学校学力経年調査結果から課題を見つける。どのような学力を児童につけさせ、どのようにして能力を発揮させることができるか、今後も継続して取り組みを進める。そのために、 ① 児童一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みとして、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを引き続き行う。 ② コロナ禍でも、単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように引き続き工夫する。 ③ 研究授業および研修会を引き続き実施する。次年度の年間計画・方針・研究の柱を明確にして共通理解をもって研究を深める。

- 小学校学力経年調査結果から課題を見つけ、どのような学力を児童につけさせ、どのようにして能力を発揮させることができるか、今後も継続して取り組みを進める。そのために、
- ①…児童一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みとして、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、放課後学習や家庭学習支援などを引き続き行う。
- ②…単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように工夫する。
- ③…研究授業および研修会を引き続き実施する。次年度の年間計画・方針・研究の柱を明確にして共通理解をもって研究を深める。
- 学年で一人１階の研究授業をするかなど予定を立てないと研究も深まらない。
- 今後の状況に応じて、学習形態を考慮する必要がある。
- クラス内でも学力に大きな差が見られる。習熟度別少人数学習に取り組んだ方がよい。
- 今年度はなかなか叶わなかったが、全員がしている研究授業をお互いに参観できるようになれば嬉しい。

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 学校の年度目標 ○令和 2 年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」(H29:95%　H30:95%)、「外国語活動は楽しい」(H29:87%　H30:94%　R1:96%）の項目において、肯定的に答える児童の割合をともに 90%以上にする。	A 4 B 11 C 2 D 0 B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策６　国際社会において生き抜く力の育成】 ＩＣＴの効果的な活用方法について指導方法（プログラミング学習等）の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。 指標　令和 2 年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H29:95%　H30:94%　R1:96%）にする。	A 6 B 11 C 0 D 0 B
取組内容②【施策６　国際社会において生き抜く力の育成】 外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。 指標　令和 2 年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上」(H29:87%　H30:94%　R1:92%）にする。	A 1 B 10 C 6 D 0 C

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① デジタル教材やタブレットなどを活用し、学年に応じて実践を行った。令和２年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 95%で、目標（90%）を上回った。ICT 機器を活用し、視覚的に捉えることで、内容を把握しやすく学習意欲も高まっている。また、双方向通信学習 Teams を活用し、オンライン学習の環境を整えつつある。

② モジュール学習を積極的に取り組み、外国語に触れる活動を増やしている。しかしながら、令和２年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 89%で、目標（90%）を下回った。外国語が教科に変わったことから、評価等も入ってきたこともあり、肯定的に答える児童の割合が減った面もある。

- ①…デジタル教材やタブレット等を活用して、学年に応じて実践を行った。視覚的に捉えることで学習支援につながったので、児童の学習意欲も上がり、わかりやすい授業になった。
- 令和２年度の校内調査における「ＩＣＴを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 95%で、目標（90%）を上回った。ＩＣＴの効果的な活用方法について指導方法の研究を行い、授業実践を蓄積させることができた。
- ②…令和２年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 89%で、目標（90%）を下回った。C-NET の授業を参考にしたりするなどして、外国語活動・英語教育の指導法を共有してきた。
- ICT を使用することはできている。ただ、効果的かどうかといわれるとそこが課題となる。
- ICT の活用においては一定の効果が得られているが、外国語においては課題が見られる。
- 階段に英単語を張ったり、児童集会や Teams を利用したりして ICT を全学年で取り組める楽しい活動が必要である。
- 前年度は、校長戦略予算で外部講師に来ていただいたり、英語担当の先生に 2 回ほど出前授業をしていただいたりして、低学年でも取り組んだ。
- ①…ICT を活用した授業は展開で来ているがプログラミング学習において授業内では行えていない。
- ②…モジュール学習を定期的に行えているが、目標の数値に達することができなかった。
- 「外国語活動は楽しいですか」の結果が 89%であったが、ほぼ目標通りに達成することができた。
- ICT はよく活用できていると思う。だが一人 1 台のＰＣが入ってくることで扱いは難しくなると予想されるので、これからも実践を蓄積していく必要がある。

・　プログラミング学習の指導法がまだよくわからない。研修会を開いてほしい。 ・　①…日々の学習や全校での活動等、ICT を活用する場面が多く、効果的に教育活動に行かせたと思う。 ・　②…曜日、時間を校内で決めて取り組むことで、系統的に学習を進めることができている。 ・　①…デジタル教科書やTeams 等の活用で日常的にＩＣＴに触れる機会があった。 ・　②…朝学の時間に楽しく行うことができた。 ・　ICT を活用した学習について、わかりやすいと答える児童が 95%と目標に達している。 ・　校内調査で「外国語活動は楽しい」と答える児童が 89%と目標に近い数値となっている。 ・　対面を避ける状況で、ＩＣＴに触れる機会が増えていた。 ・　Teams の使い方も丁寧に周知して分かりやすかった。 ・　①…デジタル教科書やタブレット等を活用し、児童の学習に効果があった。指標にあたる数値は 95%で目標を上回った。 ・　②…指標にあたる数値は 89%で、ほぼ目標通りであった。モジュール学習も実施し、楽しく活動できている。
次年度への改善点
①　ＩＣＴの効果的な活用について指導法の研鑽を深め、授業実践を蓄積させる。来年度より一人１台のノートパソコンが導入されることから、使用法・指導法の研修と研究を実施していく。また双方向通信学習の環境整備も並行して実施していく。 ②　C-NET の授業を参考にしたり研修会を実施したりする等して、外国語活動・英語教育の指導法を共有していく。 ---------- ・　①…今後もＩＣＴの効果的な活用について指導法の研鑽を深め、授業実践を蓄積させる。また、使用環境が完全ではないので、指導がスムーズにいかない場合がある。使用環境の整備を行う。 ・　②…C-NET の授業を参考にしたりするなどして、外国語活動・英語教育の指導法を共有していく。 ・　一人１台のノートパソコンの活用を全教職員で取り組んでこそ、やる意味があると感じる。 ・　①…プログラミング学習の研修会を行い、授業内で使えるようにしていく。 ・　②…楽しく学習できるような指導法を考えていく。 教員が ICT の活用に慣れてきたと思うので、さらにいろいろな活用法が広まればよいと思う。

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標 ○令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ２ポイント（回）、２ポイント（回）、２ポイント（cm）向上させる。 学校の年度目標 ○令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より４ポイント向上（H28:男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント　H29：男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント　H30:男子 52.34 ポイント　女子 53.13 ポイント　R1:男子 50 ポイント、女子 53.03 ポイント）させる。	A 1 B 11 C 6 D 0 B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策７　健康や体力を保持増進する力の育成】 体育の授業において、敏捷性や跳躍力のアップを目指す取組をする。 指標　令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ２ポイント（回）、２ポイント（回）、２ポイント（cm）向上させる。	A 1 B 12 C 5 D 0 B
取組内容②【施策７　健康や体力を保持増進する力の育成】 運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら体を動かすことのできる取組を年間通して工夫する。 指標　令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より４ポイント向上（H28:男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント　H29：男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント　H30:男子 52.34 ポイント　女子 53.13 ポイント　R1:男子 50 ポイント、女子 53.03 ポイント）させる。	A 0 B 11 C 7 D 0 B

達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、反復横跳び・シャトルランでは目標数値に達することができなかったが、立ち幅跳びは目標数値を大きく上回った。体育行事や体育科の学習で、なわとびをたくさん行うことで跳躍力の伸びが見られ、なわとびカードなどの活用で目標を持ちながら楽しく取り組めていた。

② 令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計得点の結果は、前年度より上回ることはできたが、目標数値に達することはできなかった。コロナの影響で運動場の遊びや、学習内容にも大きく制約があり、運動量が減っている中、なわとび週間や各学年の体育科の学習で工夫した取り組みを行うことで、児童の体力維持につながっている。

- ①…各学年、体育の学習で児童の敏捷性・跳躍力を向上させるよう、指導に工夫をしながら取り組んできた。しかし、令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、立ち幅跳びは目標数値を上回ったが、反復横跳び・シャトルランでは、目標数値に達することができなかった。
- ②…コロナの関係で、かけ足週間は実施できなかったが、なわとび週間は実施することができた。体育の学習でも、水泳学習は実施できなくなるなど、学習内容に大きく制約があった。さらに、休憩時間の運動場での遊びにも制限があり、児童の体力はかなり落ちたと考えられる。令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計得点の結果は、前年度よりも上回ることはできたが、目標数値に達することができなかった。
- 達成しているポイント、達成していないポイントの差が大きい。体力テストに向けての取り組みを各学年でもっと計画的に考えていかなくてはならない。

- 上待っていないので達成状況はCと思う。
- 反復横跳び、シャトルラン、立ち幅跳びに直接かかわりの深い取り組みが必要。（例えばシャトルラン大会等）
- ①…立ち幅跳びのポイントは上がっているが、他の反復横跳び・シャトルランは大幅に平均値が下がっている。
- ②…総合ポイントは男女ともに向上している。
- シャトルランの記録が低いことから、やはり体力は落ちている。体育等でもっと多くの運動をさせたい。
- 反復・立ち幅跳びに関しては平均を上回っている。これは、なわとび週間等、外でなわとびをたくさん行ったからだと感じた。来年度も継続していきたい。
- 体育主任が立ち幅跳びのコツや運動神経が良くなるダンスを児童に教えてくれたので、児童は毎回目標を持ちながら楽しんで取り組むことができた。
- コロナの影響で、運動量が減っている中、なわとび週間等の取り組みなどで子ども達の体力維持につながっている。
- ①…猛暑やコロナ禍で制限はあったが、体育の授業等効果的に取り組むことができた。
- 昨年度に比べ、立ち幅跳びの記録が向上しており、跳躍力の伸びがみられる。
- 体力合計得点については、目標の４ポイントには満たないが、ポイントの向上が見られる。
- 休み時間に自主的にかけ足をする姿、なわとびをする姿が見られ、進んで運動をする姿が見られた。年間を通した体力向上の取り組みを継続して行う。
- 体育の授業に対して多くの制限があり、例年と同じような活動はできていない。その中でできる限りの取り組みはなされてきた。
- コロナ禍での体力低下が著しかった。運動の制限もあったことから、スポーツ週間等での取り組みの改善が必要。
- コロナ禍で制限の多い中、できる範囲で体力をつける活動を計画的に実施することができた。
- 猛暑・コロナ禍で、体力向上を図る機会が少なかったが、体育の授業等、効果的に取り組むことができた。
- 指標の目標値には至らなかったが、1.8ポイント向上させることができた。

次年度への改善点

① 体育科の学習を通して、俊敏性・跳躍力を伸ばせる指導法の研究を深めることが必要である。一方、対象学年が毎年違うので、指標を見直し全国や大阪府の平均値から改めて目標数値を設定するべきである。

② 今後もスポーツテスト・なわとび週間・スポーツ週間・かけ足週間等の体育行事を継続していく。児童が運動やスポーツに興味・関心が持てるように、体育科の授業を中心に指導していく。また、児童が運動場で安全に運動できる環境を整備していく。

- ①…令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、全体的に前年度の数値を下回り、目標数値に達することができなかった。今後児童の体力向上を目指し、体育の学習を通しながら敏捷性・跳躍力を伸ばせる指導法の研究・研修を深めることが必要である。一方、対象児童が毎年違うので、指標を見直し全国の平均値から改めて目標数値を設定するべきである。
- ②…今後もスポーツテスト・なわとび週間・スポーツ週間・かけ足週間等の体育行事を継続していく。児童が運動やスポーツに興味・関心が持てるように体育科の授業を中心に指導していく。また、児童が運動場で安全に運動できる環境を整備していく。
- 効果的な指導法の工夫や休み時間の調整などをしていく。
- 学校として前年度のスコアと比較するのも良いが、同じ学年のスコアを１年毎に比較する方が伸びが分かりやすい。